

地域再生計画（道整備 交付金）事後評価調書

| | | | | | |
|-------|---------------|--------|------------------|---------|---------------------------|
| 都道府県名 | 長野県 | 事業実施主体 | 長野県、南木曾町 | 地域再生計画名 | 山のこころ—森・人 担い手育成・交流活性化事業計画 |
| 計画期間 | 平成24年度～平成30年度 | 評価責任者 | 南木曾町 建設環境課長 尾崎国彦 | | |

| | 指標 | | 基準値 | | 中間目標値 | | 最終目標値 | | 事後評価 | 達成状況 | | 最終目標値の実現状況に関する評価 | |
|------------------------------|------------------|----------------------------|---------------------------------------|------------|--------|--|---------------|------|---------|------|-----|------------------|---|
| | 指標1 | 指標2 | 基準年度 | | 年度 | 中間実績 | 基準年度 | 最終実績 | | 指標総数 | 達成数 | | |
| ①地域再生計画に記載した数値目標の実現状況 | 指標1 | 【目標1】 柿其溪谷年間入込客数 | 14,900人 | H22 | H25 | 16,300人 | 16,000人 | H31 | 13,800人 | △ | 4 | 2 | <p>関連事業の効果もありH24、H25は目標を上回る数値となったが、H26.7南木曾町豪雨災害、H26.9御嶽山噴火の影響で南木曾町さらには木曾郡全体で観光客の入込みが急激に落ち込んでしまった。よって、目標達成することができなかった。</p> <p>完成、供用開始した町道・林道部分において、区間内の住民の移動の円滑化、通行の安心の安全確保とともに、一定の時間短縮が図られた。今後、川向柳野線が供用開始されると更なる移動時間の短縮が図れる予定である。</p> <p>H24年度～H30年度の7年間で28.67ha間伐実施し、計画面積15haを達成できた。</p> <p>H30年度までに、交通事故による通行止め実績がないが、H26.7.9南木曾町豪雨災害の時には国道19号が3日間通行止めとなったが、災害関係車両や警察・消防車両の通行に効果を発揮した。</p> |
| | 指標2 | 【目標2】 天白公園から柿其溪谷までの移動時間 | (19号経由) 15分 | H22 | H25 | 15分 | (町道経由) 10分 | H31 | 13分 | △ | | | |
| | 指標3 | 【目標3】 間伐面積 | 0ha | H22 | H25 | 14.8ha | 15ha | H31 | 28.67ha | ○ | | | |
| | 指標4 | 【目標4】 国道19号通行止め時 迂回時間 | 2時間 | H22 | H25 | 通行止めなし | 0時間 | H31 | 通行止めなし | ○ | | | |
| ②地域再生計画に記載した数値目標以外の波及効果の実現状況 | 指標1 | | | | | | | | | | | | |
| | 指標2 | | | | | | | | | | | | |
| ③事業の進捗状況 | 事業名 | | 整備量（その他の事業では取組内容） | | | 事業の進捗状況に関する評価 | | | | | | | |
| | | | 計画 | 中間年度 (H25) | 最終実績 | | | | | | | | |
| 特別措置を適用して行う事業 | 町道整備事業（整備延長） | | 1.65km | 1.034km | 1.63km | 町道本谷線（計画0.15km⇒実績0.13km）、天白川向線（計画0.10km⇒実績0.10km）はほぼ計画どおり実施できたが、町道川向柳野線（計画1.40km⇒実績1.40km）は、変更計画時には予想できなかった法面対策、巨石破碎に費用と時間を費やすことになった。今後の方針として、防災・安全交付金事業で当該区間の早期完成を図る。 | | | | | | | |
| | 林道整備事業（整備延長） | | 0.45km | 0.10km | 0.53km | 整備箇所林道恋路峠線（計画0.1km⇒実績0.1km）秋葉山線（計画0.35km⇒実績0.43km）の完成により、当該森林へのアクセスの円滑化が図られている。 | | | | | | | |
| その他の事業 | 町道岩倉線整備事業 | | 町道整備により、地域内交通の円滑化を図る。 | | | 予定通り整備事業が完了した。岩倉地区を整備することにより、地域内交通の円滑化が図られ、地域住民の利便向上と安心安全に結び付くことが期待される。 | | | | | | | |
| | 町道天白川向線橋梁補修事業 | | 町道整備により、地域内交通の円滑化を図る。 | | | 予定通り整備事業が完了した。大洞橋を修繕することにより、地域内交通の円滑化が図られ、地域住民の利便向上と安心安全に結び付くことが期待される。 | | | | | | | |
| | 公有林整備事業 | | 計画的に間伐等の森林施業により、荒廃地の拡大防止と地域産業の活性化を図る。 | | | 今後も継続的に実施することで、林業の振興と林業の振興担い手の育成・拡大が期待される。 | | | | | | | |
| | 民有林整備事業 | | 計画的に間伐等の森林施業により、荒廃地の拡大防止と地域産業の活性化を図る。 | | | 今後も継続的に実施することで、林業の振興と林業の振興担い手の育成・拡大が期待される。 | | | | | | | |
| | 天白公園 桃介橋整備事業 | | 町内観光地整備により、交流人口の拡大と地域産業の活性化を図る。 | | | 予定通り事業が完了した。天白公園のトイレ整備、桃介橋ライトアップ事業を実施したことで、観光客の増加に結び付くと考えられる。 | | | | | | | |
| | 妻籠宿整備事業 | | 町内観光地整備により、交流人口の拡大と地域産業の活性化を図る。 | | | 中山道を歩く外国人観光客は10年前の6倍になっている。当該事業を継続して実施することで、観光・交流の拠点として観光客の増加に結び付くことが期待される。 | | | | | | | |
| | 妻籠宿町並み交流センター建設事業 | | 町内観光地整備により、交流人口の拡大と地域産業の活性化を図る。 | | | 当該事業の実施に向け、ポーリング調査、概略設計を行った。今後も計画進捗を図り事業完了時には、観光・交流の拠点として観光客の増加に結び付くことが期待される。 | | | | | | | |
| | 山の歴史館整備事業 | | 町内観光地整備により、交流人口の拡大と地域産業の活性化を図る。 | | | 予定通り整備事業が完了した。当該事業を実施したことで、観光客の増加に結び付くことが期待される。 | | | | | | | |
| | 柿其溪谷遊歩道整備事業 | | 町内観光地整備により、交流人口の拡大と地域産業の活性化を図る。 | | | 予定通り整備事業が完了した。当該事業を実施したことで、近接の阿寺溪谷の整備と合わせ、観光客の増加に結び付くことが期待される。 | | | | | | | |
| | 観光地公衆トイレ整備事業 | | 町内観光地整備により、交流人口の拡大と地域産業の活性化を図る。 | | | 予定通り整備事業が完了した。当該事業を実施したことで、観光客へのおもてなしとして効果を挙げている。特に中山道を歩く外国人観光客は10年前の6倍と激増しており、近年の外国人観光客の増加にうまく対応できている。 | | | | | | | |

| | | | |
|------------|--|------------------------------------|--|
| | 地域バス運行事業 | 地域住民や観光客の地域内交通利便の向上と地域の活性化を図る。 | 当該事業を継続して実施することで、観光客の増加に結び付くことが期待される。特に外国人観光客の利用が多くみられるようになっている。 |
| | 町営住宅建設事業 (柿其地区、天白地区) | 町営住宅の建設により、計画区域内の定住人口、担い手の拡大を図る。 | 柿其地区は予定通り2戸の町営住宅の整備事業が完了した。天白地区は、宅地造成を行い、分譲を行った。当該事業を実施したことで、若者の定住を促進、担い手を確保し、限界集落の発生防止につなげることができた。 |
| | 日本で最も美しい村まちづくり事業 | 担い手の育成と交流を促進し計画区域内の定住人口、担い手の拡大を図る。 | 当該事業を継続して実施することで、集落周辺や農地周辺の景観に支障となっている立木等の除去を行うことで、観光客、交流人口の増加に結び付くことが期待される。 |
| | 木曽川上下流交流事業 | 担い手の育成と交流を促進し計画区域内の定住人口、担い手の拡大を図る。 | 愛知県長久手町と交流を深めている。当該事業を継続して実施することで、木曽川下流域中京圏の都市部から上流域である町に人を呼び、交流人口の増加に結び付くことが期待される。また、大規模災害時における協定を締結し、H26.7.9南木曽町豪雨災害時には多くのご厚意をいただくなど、官民あげての交流が進んでいる。さらに、大同特殊鋼㈱と「森の里親協定」を締結するなど効果が出ている。 |
| | 天白公園つつじ祭 | 担い手の育成と交流を促進し計画区域内の定住人口、担い手の拡大を図る。 | 毎年4月上旬に当該事業を継続して実施している。JR東海のウォーキングイベント等とタイアップし、天白公園だけでなく、桃介橋や山の歴史館といった周辺への観光客、交流人口の増加に結び付くことが期待される。 |
| | 天白公園・柿其溪谷ポスター作成 | 担い手の育成と交流を促進し計画区域内の定住人口、担い手の拡大を図る。 | 予定通り事業が完了した。当該事業を継続して実施することで、都市部駅構内や関係機関等で掲示し、周知する事により、観光客・交流人口の増加に結び付くことが期待される。 |
| | 園芸特産物振興事業 | 担い手の育成と交流を促進し計画区域内の定住人口、担い手の拡大を図る。 | 当該事業を継続して実施することで、特産品、農産物の開発などを行い、周知、集客し交流人口の増加に結び付くことが期待される。また、農家、農協等と連携し地元小学校の児童へ稲作等の積極的な指導を行い、担い手の育成も図っている。 |
| | 軽トラ市場の開催 | 担い手の育成と交流を促進し計画区域内の定住人口、担い手の拡大を図る。 | 当該事業を継続して実施することで、農産物を目当てに訪れた観光客等を周辺の観光地へも案内でき、交流人口の増加に結び付くことが期待される。 |
| | 森林資源・地域ブランド育成事業 | 担い手の育成と交流を促進し計画区域内の定住人口、担い手の拡大を図る。 | 当該事業を継続して実施することで、地域ブランドの確立を図り、また林業・木工業振興の担い手の育成が図られることが期待される。 |
| | 計画外で独自に実施した事業 | | |
| ④評価方法 | 長野県と南木曽町が観光地利用者統計調査、移動時間実測調査、間伐面積・通行止め情報の関係機関聞き取り調査等を行い、最終目標値の達成状況に関する評価・検討を実施。 | | |
| ⑤事後評価の公表方法 | インターネット（長野県、南木曽町のホームページ）により公表する。 | | |
| ⑥計画全体の総合評価 | 本地域再生計画は、道整備交付金を活用して町道と林道を一体的に整備し、町内観光地間の移動時間の短縮や通行の円滑化、迂回路の確保、安心安全の確保、森林整備による林業振興、担い手の確保など、地域経済の課題解決と限界集落・人口減少に歯止めをかけ、地域を再生するために実施してきました。指標1の観光客数はH26.7.9南木曽町豪雨災害、H26.9御岳山噴火災害により木曽谷観光が敬遠され厳しい状況から抜け出せない現状となっている。また指標2の時短目標は、当計画の基幹事業である町道川向柳野線の完成区間の供用や、その他の町道事業の完了により安心安全の確保や利便性の向上など指標以外での効果は発現している。時間短縮についても改善が図られた。指標3の間伐実施面積については、最終目標値の15haを大幅に上回り約2倍の28.67haを実施でき、指標4についても成果がみられることから、当該計画事業について一定以上の効果はあったと判断される。林道事業や交付金活用事業以外の取り組みも含め、木曽川右岸地域の雇用の創出・物流の活性化があり、効果を発揮している。従って、おおむね目標を達成できたと評価している。 | | |
| ⑦今後の方針等 | 本地域再生計画は、町道川向柳野線事業がほぼ完了し計画どおりの成果が発揮されている。間伐実施面積については、最終目標値の15haを大幅に上回り約2倍の28.67haを実施でき、林業振興の発展が進んでいると言える。ただ、災害で大きな被害があったことから交流人口の創出を作り出すことが課題となっている。新たに認定された日本遺産や外国人に人気の中山道ウォーキングを組み入れた観光誘客、森林整備による雇用の創出、町営住宅建設、宅地造成の定住化対策など、新たな事業との連携を図りながら、交流・物流を盛んにし、地場産業さらに町の活性化を図っていきたい。 | | |